

骨肉腫におけるバイオマーカーとしてのマイクロ RNA 発現解析 —採血で薬の効き具合が分かるか?—

千葉県がんセンター整形外科 岩田慎太郎

千葉県がんセンター整形外科では、毎年 3-4 人の小児・青年期骨肉腫患者さんが治療を受けておられます。骨肉腫は「骨のがん」の一種であり、本邦では 20 歳未満の人口のうち 50 万人に一人の発生率とされています。

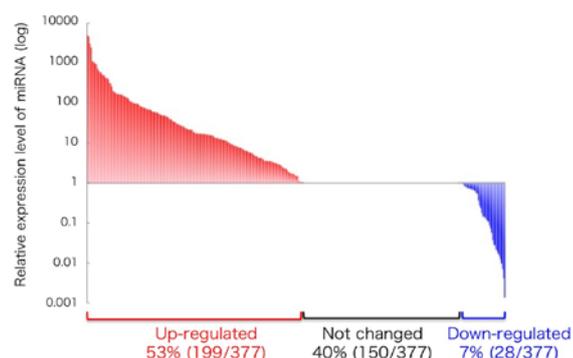
これまでに抗がん剤や手術の進歩により骨肉腫の治療成績は飛躍的に進歩し、最新の 5 年生存率は 80% に迫るところまでできました。しかし抗がん剤が効かない一部の患者さん（薬剤抵抗性）や肺などに病気が飛んでしまっている患者さん（遠隔転移例）では、治癒を得ることが難しくなってしまいます。



私たちは、患者さんの血液を調べることで、薬の効き具合や転移の早期発見ができるような腫瘍マーカーの発見に取り組んで参りました。

これまでの研究でその候補となる遺伝子（マイクロ RNA）をいくつか見つけています。今後、さらに多くの患者さんからご提供いただいた血液を用いて研究を進め、骨肉腫の腫瘍マーカーを確立し、実際に骨肉腫患者さんの治療に役立てることを目標に引き続き取り組んで参ります。

各miRNAプローブの発現強度分布



miRNA発現クラスター解析

